

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会 (メルマガ)
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



◆ 目 次 ◆

- 活動報告
- お知らせ

♪ホームページ折々に更新中!
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

2021年度 箕面ユネスコ講演会・報告会! ユースチーム桃太郎・桃山学院教育大学

箕面ユネスコ協会 ユースチームへの期待

命の尊さや人の絆の大切を思う心を育む桃山学院教育大学への期待

令和4年3月20日、らいとびあ21(菅野中央人権文化センター)にて、2021年度箕面ユネスコ協会講演会が開催されました。本年度もコロナ禍の中、「気仙沼の食を楽しむ会」は開催することはできませんでしたが、



1部の講演会は感染対策をしながら開催されました。坂口会長の挨拶にもあったのですが、活動を次の世代に引き継いでいくことへの課題は、箕面ユネスコ協会に限らず、どの組織にも共通するものです。けれども、今日の報告はその課題の解決に大きな期待と希望を感じるものでした。



まず、1つめは「桃太郎とゆかいな仲間たち」の子ども食堂への取り組みの報告です。地域の子ども支援の活動として企画した、配食を通して直接子どもと触れ合うことは、蔓延防止等重点措置で断念せざるを得ないなど、自分たちで考えた計画を変更せざるを得ない状況が何度かあり、めげそうになったけれども、サポートする(大人?)の方々の応援もあり、宅配する方法で成し遂げることができ、ユース活動の第一歩になったこと、2つ目は、桃山学院教育大学の学生による気仙沼を中心とした、東日本大震災跡を訪問する旅の報告でした。11年前の大震災の現状を、震災遺構の見学や仙台未来防災フォーラムに参加し他大学の学生との交流を通して、命の尊さや人の絆の大切さを実感した旅

であったという報告でした。震災を忘れないという気持ちとともに、多くの学生が教育者として巣立とうとしている桃山学院教育大学の学生の皆さんにとって、今後の教育活動への大きな示唆になったのではないのでしょうか?これら、2つの報告は、箕面ユネスコ協会の掲げる「誰一人置き去りにしない」というSDGsの理念を具体化したものだと思います。また、その実現に向けての若者(ユース)の活動は、まだ緒に就いたところかと思いますが、豊かな発想力と行動力に期待した時間でした。

坂口会長をはじめとする(大人)チームの支援にも敬意を払いたと思います。

(笹川 実千代)

「3.11 を忘れない」教育大生が未来に繋ぐ震災の記憶

東日本大震災から11年目となる2022年3月4日（金）～6日（日）にかけて、桃山学院教育大学の学生8名が、箕面ユネスコ協会の坂口会長の全面サポートの下、東北遠征を敢行しました。参加した学生の多くは教員を目指しているものの、新型コロナウイルスの蔓延によって様々な体験活動の自粛を余儀なくされており、ともすれば知識偏重の学生生活になりかねない中でしたので、できる限りの感染対策のもとで臨んだとはいえ、受け入れてくださった東北の方々には感謝の思いでいっぱいです。

震災当時は関西で小学生だった学生にとっては、東日本大震災



の記憶はどこかリアリティのない出来事だったようですが、今回被災された多くの方々の話を直接伺い、また津波被害のあった地域や復興の様子を目の当たりにすることで、知らない遠い場所の「他人事」から「自分事」へと大きな意識の変化がみられました。また、数々の悲しみを経験してもなお、遅しく歩み続ける人々の姿に、真の人間の強さと優しさを感じたようでした。



さらに、東北の大学生らとともに「仙台未来防災フォーラム2022」に出展し、これまで大学で実践してきたSDGs活動や防災教育の在り方について情報発信するとともに、同世代の学生と交流ができたことは何よりの刺激となったようです。

帰阪後は、物事を表面的に捉えるのではなく、心と身体で立体的に感じ取ることや、実体験を通じて得られるタフな主体性の大切さを痛感しているように見えます。今後もこのような学びの場を大切にするとともに、豊かな人間性と深い共感性を持つ教育者を育てていきたいと思えます。（桃山学院教育大学・教授 中村 浩也）



ユネスコ協会 ウクライナ緊急募金

<https://www.unesco.or.jp/join/ukrainebokin/>



日本ユネスコ協会連盟では、ウクライナの隣国ルーマニアのルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟等と共同で、ウクライナ難民支援を行っています。現在、募金受付期間は、5月31日までに延長されています。

詳しくは、日本ユネスコ協会連盟ウクライナ緊急募金の特設ページ(右上アドレス)をご覧ください。

また、箕面市民活動センター内には、募金箱を設置しています。お預かりした募金は、箕面ユネスコ協会が、責任をもって日本ユネスコ協会連盟にお届けします。ルーマニア等のユネスコ協会に直接届けることのできる貴重な募金になります。ご協力をよろしくお願いいたします。



ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金
ご協力をお願い

ロシア軍によるウクライナ侵襲に際し、これまでに340万人のウクライナの人びとが周辺諸国に流入し、難民状態にあります。日本ユネスコ協会連盟は、ウクライナ難民支援を開始しました。皆さまの温かい募金のご協力をお願いいたします。

【募金の状況について】
「ウクライナ国境に近いルーマニアのスキェルパで活動するシニアユネスコ協会（ゼン・ミリアン会長）」「スキェルパ市内では、ホテル、学校やスポーツセンター、文化センターなどに人びとが押し寄せており、食糧や着る物、寝具など、さまざまな物資が必要です。1時間あたり200人もの難民がウクライナから押し寄せてくるが、日本の募金からその量は非常に少ないです。このスキェルパではその状況は等下になり、困られた身の回りのものでしのぎたい人たちに、必要なものを提供していきます」

【支援内容】ウクライナ難民への食糧・衣類・生活物資支援
【対象地域】ウクライナ国境に近いエリアおよび避難民流入国（隣国ルーマニアなど）
【現地支援団体】ウクライナの隣国ルーマニアのルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟、他

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

- ・銀行振込 みずほ銀行 恵比寿支店 普通 1128426 (シニア)ユネスコ協会ウクライナ緊急募金
- ・郵便振替 00190-4-84705 加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
- ・クレジットカードでの募金も可能です。※詳しくはホームページをご覧ください。

【募金受付期間】2022年3月24日～2022年5月31日 ※期限により、期間延長する可能性があります。
【住所】〒565-0822 大阪府箕面市箕面1-1-11 TEL: 06-5428-1211 mail: ukra@unesco.or.jp URL: <https://www.unesco.or.jp/>

●箕面市立萱野小学校 2年生● えがおでつながる大きくせん



♪子どもたちの質問に答える形でビデオレターをくださった鶴見橋中学校のみなさん

2学期には、大阪市立鶴見橋中学校とのやりとりを通して「はるかのかのひまわり」への思いを高めていった2年生の子どもたち。一人ひとりが描いた絵や詩が教室に飾られていました。



3月には、学びの総まとめとして、「はるかのかのひまわり」のおはなし紙芝居をグループごとに力を合わせて制作し、1年生や5年生、校区の中学校や地域の方、保護者の方々に、オンラインで披露して、震災のことを伝えたそうです。同時に、8000個以上採れた種は手製のひまわり封筒に入れ、それぞれの方にプレゼントしたとのこと。



♪種を入れてプレゼントする封筒に絵やこぼえを添えました



♪ひと粒ひと粒、丁寧に種を数えました

子どもたちと出会ったたくさんの方の笑顔が目に見えます。

1年を通してさまざまな形で協働させて頂いたこと、そして、すてきな活動をみせて下さった子どもたち、先生方に感謝いたします。この活動に協力して下さった鶴見橋中学校のみなさん、本当にありがとうございました。この夏には、子どもたちの思いをのせたひまわりが箕面の地にたくさん咲きそうです。(大濱 淳子)

● 東日本大震災から11年目 ●

■ 3.11. 1.17を忘れない

東日本大震災から11年となります。震災関連死を含めた死者・行方不明者は2万2207人。失われた命を思い、残された人たちの心の痛みを想像する。そして、これからくる災害への教訓と備えを考える――。

これまで！市民活動センターを会場に、震災直後から募金活動や被災地支援の活動の様子を、パネル展・イベントを通して「3.11を忘れない」をテーマに開催してきました。昨年、10年目を節目として市民活動セン



ターでのイベントは終了しましたが、‘フォーラムのお’さんとの連携で、箕面ユネスコ協会の活動記録を写真で伝えるためパネル展を開催することができました。11年前から今に至る被災地支援、毎年のように起こる災害への支援活動記録も展示しました。次の大地震や津波、豪雨災害などがいつ起こるのかは分かりません。必ずまたやってくる“自然災害”から命を守るために、「忘れない」ための活動をこれからも細く長く行います。

(坂口 一美)

■ 私たちは走り続ける！ 福島県沖で発生した地震 (宮城、福島で震度6強)



2022年3月16日23時36分頃に福島県沖で発生した地震、震源の深さは57キロ。マグニチュード(M)7.4と推定され、宮城県登米市や福島県相馬市などで震度6強の地震がありました。宮城県白石市では強い揺れの影響で停車する東北新幹線の車両が脱線するなどしました。私たちは、2019年10月6日台風19号の豪雨で中心部に大規模な浸水があった宮城県丸森町の支援活動に行ったおり、当時、活動拠点とした宮城県白石市の佐藤さんのお世話になりました。

今回は、4月2日～4日の間、宮城県へ白石市の「福祉プラザやまぶき白



石市災害ボランティアセンター」へ行きました。コロナ渦中でも災害は起きます。しかし、緊急事態宣言、蔓延防止重点措置の中、直接的な活動が制限される難しい状況が続いていましたが、感染予防に配慮しながらボランティア活動を再開して行きたいと考えています。(坂口 一美)

